

平成26年第7回教育委員会会議録

開会日時 平成26年7月24日（木） 午後3時15分

閉会日時 平成26年7月24日（木） 午後4時48分

場 所 岡崎市役所東庁舎2階大会議室

出席委員 土屋 武志 小出 義信 櫻井 敬子 福應 謙一 高橋 淳

説明のため出席した職員

横山教育部長 高須教育監

鈴木教育部次長兼総務課長 山田教育部次長兼社会教育課長

安藤学校指導課長 鈴木施設課長 春日井給食管理室長

水越文化芸術部次長兼中央図書館長

会議録指定職員

神尾総務課主幹

渋谷総務課主任主査

議題

- 1 岡崎市図書館協議会委員の委嘱について
- 2 教科用図書の採択について

（議題及び議事の要旨）

土屋委員長

議事に入る前に日程第2第11号議案「教科用図書の採択について」は、委員の率直な意見交換又は意思決定の中立性が不当に損なわれる恐れがあるため、秘密会として審議することを発議し賛成委員の挙手を求める。

挙手（全員）

土屋委員長

秘密会として審議することを決定

■日程第1 その他

岡崎市図書館協議会委員の委嘱について

水越中央図書館長

議案書等により説明

土屋委員長

質疑を許可

（質疑なし）

■日程第2 第11号議案

教科用図書の採択について

土屋委員長

第11号議案については、自身がこの案件に携わった関係で地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第5項の規定に該当し、この審議に参加することができないことから同法第12条第4項の規定により委員長職務代理者である小出委員に議事進行を求める。

(土屋委員長退室)

(※教科用図書の発行者名は、別添の略称表を参照してください。)

学校指導課長

議案書等により説明

小出委員長職務代理

種目名ごとに協議を行う。

小出委員長職務代理

国語について協議を行う。西三河教科用図書採択地区協議会が選定したのは東京書籍である。このことについて委員の意見を求める。

委員

東京書籍は、「国語のノートの作り方」が設けられ、児童の学ぶ基盤作りができる。単元に載っているワークシートの例も具体的で、専門でない教員も、的確に指導することができる。しかし古典の教材が少なく、指導要領にある「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を指導する場合、教員が別に補助教材を用意する必要がある。「岡崎の心の醸成」に関連づけた、伝統的な事項の指導が若干、取りづらいこと、従来の前後巻が一冊になっていることで持ち運びに多少の重さを感じるが、新聞記事を比較する単元など、全ての教科学習の基盤となる言語活動が非常に重視されており、児童の活用の力を伸ばすことができると思われる。

委員

光村図書は、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を指導するために、いろいろな種類の教材が用意されている。また、「読むこと」の指導に適した、質の高い教材文が多いと感じる。反面、「言語活動」を通しての「書くこと」、「話すこと」、「聞くこと」の力を伸ばす教材に、魅力的なものが少ない。ページ内の文字情報がかかり多く、レイアウトが窮屈な印象を受けるため、国語を苦手とする児童や国語を専門としない教員には、抵抗感が生まれる心配がある。

委員

学校図書では、宇治拾遺物語など、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を指導するための教材に工夫が見られ、児童が興味・関心をもって学習できる。また、前後巻が分冊となっており、毎日の持ち運びが容易であり授業でも使いやすいと感じる。しかし、国語の学習において身につけなければならない知識・技能が教科書のなかに明示されておら

ず、児童が自ら基礎・基本の習得を意識し、学ぶことができない。各単元の「学習のてびき」が旧態依然で、児童が見通しをもって主体的に学ぶことができないなど、心配な点もあると思われる。それらのことから、基礎基本を大切にする東京書籍がよいのではないか。

委員

最初は光村図書に魅力を感じたが教科書を読みこむなか、小学校では、国語を専門としていない教諭が国語を教える場合、東京書籍のほうが教えやすいと感じる。東京書籍は、単元毎に「言葉の力」が明示されているため、身につけたい国語の力を意識して、児童が学習に取り組むことができると考えられる。さらに、「言葉の力」が見やすくまとめられており、授業で必要になったときに振り返ることができるため、基礎・基本の定着を図ることができるため、東京書籍が最適だと感じる。

小出委員長職務代理

西三河教科用図書採択地区協議会が選定した東京書籍を採択することに賛成する委員の挙手を求める。

挙手（全員）

小出委員長職務代理

国語については、東京書籍を採択することを宣言

小出委員長職務代理

書写について協議を行う。西三河教科用図書採択地区協議会が選定したのは東京書籍である。このことについて委員の意見を求める。

委員

東京書籍は、奇数ページにインデックスがあり、非常に学習の系統がわかりやすい。学習内容について、学年間の系統性が明確に示されている。これまで自分が学習し、身に付けてきたこと、学年全般で学習することを、子ども自身が自覚できることは、主体的に学ぶことにつながると同時に、見通しをもって学習に取り組むことができる。各単元においても、子ども自身で考え学習を進めていくことができる「調べよう」は、大変有効である。これらの点から、東京書籍が適していると考えられる。

委員

東京書籍、教育出版、光村図書の3社を比較し東京書籍の1番の魅力は大判であることである。教科書サイズが他の教科書と不揃いになる点は、児童の整理整頓に支障が出る恐れがあるが、大判は、手本がついていることで見やすさを感じる。大判であることで「止め」や「はらい」など筆の運びが明確になっている。

委員

教育出版では、毛筆の基本である、「穂先」を中心とした「筆使い」について大変丁寧に編集している。また、単元のめあての達成度を子ども自身が確認し、振り返ることができる「ふり返ろう」が、具体的な言葉で記されている。半面、1ページ当たりの情報量が非常に多く、1時間の授業で学習しき

委員

れず、中途半端となってしまう心配があると感じる。光村図書は、イラストを効果的に使い、子どもが興味をもって学習に取り組める工夫がされている。道具の使い方、書く姿勢が丁寧に説明され、書写学習における基礎基本が大切にされていることが分かる。しかし、興味を引くはずのイラストが、逆に意図が分からず、子どもの活動に混乱を生む心配がある。また、文字の手本となるページにも、多くの情報が編集されており、子どもが集中力を欠く要因となる心配もある。東京書籍は、毛筆と硬筆のつながりを強く意識した構成となっている。各単元にある「広げよう」によって、毛筆で学習した内容を硬筆に生かす構成になっているとともに、「こう筆に広げよう」という単元を毛筆単元の間にも効果的に入れている。特徴的なところは、学習した文字だけでなく、関連した文字を硬筆練習できるようになっている点で、身に付けた力を実生活に生かすことができる。これは、書写能力の定着を図る上で、大きな工夫である。また、「竹取物語」、「枕草子」及び「おくのほそ道」といった古典を硬筆教材として用いており、学習指導要領の「日本の伝統や文化に触れる」ことができるよう編集されている。情報量においても適切な東京書籍がよいと思う。

小出委員長職務代理

西三河教科用図書採択地区協議会が選定した東京書籍を採択することに賛成する委員の挙手を求める。

挙手（全員）

小出委員長職務代理

書写については、東京書籍を採択することを宣言

小出委員長職務代理

社会科について協議を行う。西三河教科用図書採択地区協議会が選定したのは、東京書籍である。このことについて委員の意見を求める。

委員

教育出版は、写真や資料が大きく、見やすい構成になっていることやキーワードの確認、定着や章末のまとめが問題化されていることで、基礎基本の定着を図ることができる。しかし写真や資料は大きくわかりやすいが、隙間も多く、キャプションも少ないため、資料の読み取りに若干の時間がかかることが予想される。また、「自動車工業」の単元は、組み立て工場のキーワードの記述、例えば数値や情報などが少なく、見学や調査活動との関連が図りにくい構成となっている。東京書籍は、「自動車工業」の単元において、地元の自動車会社が教材化されていることから児童が身近に感じることができ、意欲的、探究的に学習を展開しやすい内容になっている。さらに自動車工場の見学が意図されており、情報提示から課題意識が連続するように、思考の流れが見通されている点で東京書籍は優れている。また東京書籍には、「異

なる地域のくらし」があり、寒い地域、温かい地域の両地域を比較しながら学習していくところがよい。

委員

日本文教は「日本の国土と人々のくらし」の単元で、地球儀の見方、地形の特徴、気候の区分について中学校の学習内容にあわせて展開され、中学校での系統的な学びが意図されていると感じる。資料がわかりやすく加工されており、頁構成に余裕があることも評価できる。しかし振り返り、定着の段階では、テーマが限られているため事実の関連づけと価値づけがしにくいという点で使いにくいことが予想される。

委員

東京書籍は、各章、各項ごとに「つかむ」、「調べること」、「やってみよう」と学習活動がわかりやすく構成されており、児童が教科書を読めば、単元の学習内容がつかみやすい構成になっていると感じる。また学習の進め方は、問題解決的な学習の進め方がわかりやすく紹介され、各章も児童の思考の流れをよく見通して構成されていると思う。さらに各章末のまとめ・発展段階は、キーワードやアイデア溢れる活動が紹介されており、意欲化につながる記述や、「持続可能な社会作り」という項目立てがされており、岡崎で行っているESDと関連した学習活動が展開しやすい記述となっている。それらの点から、東京書籍が適していると考える。

小出委員長職務代理

西三河教科用図書採択地区協議会が選定した東京書籍を採択することに賛成する委員の挙手を求める。

挙手（全員）

小出委員長職務代理

社会については、東京書籍を採択することを宣言

小出委員長職務代理

地図帳について協議を行う。西三河教科用図書採択地区協議会が選定したのは東京書籍である。このことについて委員の意見を求める。

委員

現在、帝国書院を使用しているが、東京書籍の地図帳は、A4版で製作されており、地形図の文字が大きく、平野と山地の濃淡の色合いが大変見やすいので、児童にとって、目に優しく使いやすい点が優れている。また、A4版は、プリントやファイルの大きさと同じなので、転写や記述がしやすいことが予想される。帝国書院の地図帳は、大きさが社会科の教科書と同じサイズで手ごろなものの、字が小さく、児童には使いにくい印象があるため、東京書籍がよいと思う。

委員

帝国書院と東京書籍を比較すると長年、使用してきた帝国書院が見慣れているが、例えば尖閣諸島、竹島については、両社が記載されていた。やはり地図が大判になった東京書籍の地図は、より広い範囲を同じページに入れ込むことができる。このため離島も含め本州、九州が同じ地図の中に納まることで、位置関係が非常にわかり易い。

委員	<p>帝国書院は、世界の地図についてテーマに合わせて表現が工夫されている。ヨーロッパは国名の他に特産物がわかりやすく表現され、アメリカは、各州がきれいに色分けされていることで興味関心を高める工夫がされている。教科書の学習内容を関連付けて、発展的に取り扱う活動がしやすいことが考えられるが、全体的に記載されている地名や情報そのものが多く、かえって調べにくいことが予想される。</p>
委員	<p>東京書籍は、教科書よりも縦が長いサイズで、若干大きい。机上で広げ、調べにくいことも考えられるが、総合的には東京書籍は情報が整理されており、児童の探究的な学習を支える上で適切である。世界遺産や自然災害などの頁も充実しており、岡崎市が推進しているE S Dや教科横断的な学習の展開にも相応した1冊であると考えられることから、東京書籍が適している。</p>
小出委員長職務代理	<p>西三河教科用図書採択地区協議会が選定した東京書籍を採択することに賛成する委員の挙手を求める。 挙手（全員）</p>
小出委員長職務代理	<p>地図帳については、東京書籍を採択することを宣言</p>
小出委員長職務代理	<p>算数について協議を行う。西三河教科用図書採択地区協議会が選定したのは啓林館である。このことについて委員の意見を求める。</p>
委員	<p>算数については、現在、愛知県下すべて啓林館を使用している。採択される理由としては、教科書の巻頭に「教科書の使い方」、「学習の進め方」が明確に示され、子ども自らが見通しをもって学習が進められるように、学び方や教科書の使い方がとてもよくわかるようになっている。学年のまとめに、学んだことを活用、習得することをねらいとした「発見！算数島」が選択内容として取り上げられていることは非常に評価できる。環境、防災を意識した「みらいへのつばさ」など、自ら計画し、実行する教材も掲載されている啓林館の教科書がよいと感じる。</p>
委員	<p>啓林館の教科書は、児童の関心を引くような事象を取り上げ、算数を学ぼうえで「日常生活との関わりをもって考えればできる」といった構成は非常によいと感じる。</p>
委員	<p>大日本図書や日本文教は単元の導入紙面が簡単にあらわされている。苦手な子どもには、基礎が徹底できるので、よい紙面構成になると思われる。しかし、想像力を膨らませ、授業に意欲的に取り組むようにするためには、もう少し紙面内容や問題数を多くすべきだと考える。それらのことから、啓林館の問題数が適切であると考ええる。</p>
委員	<p>日本文教、東京書籍は第5学年まで上下巻に分かれており、</p>

文字の大きさが見やすく、鮮やかな色をうまく使うなど、見やすい紙面になっている。高学年になれば、1年間の学習を繰り返し振り返るために、啓林館や大日本図書のように1冊の合本が良いと考える。啓林館は、基礎基本の定着を図るため、学びの反復、繰り返しの学習が意図的に編集されている。思考力を重視し、読解力や表現力を育成するために、「学びをいかす」の問題解決や言語活動の場面で、テープ図、線分図、関係図、表等を効果的に使用している。図や式を使って説明する活動や筋道を立てて考えること、グループでの話し合いなど、言語活動を重視することで、思考力・判断力・表現力を養うことが意図されていると感じる。

小出委員長職務代理

西三河教科用図書採択地区協議会が選定した啓林館を採択することに賛成する委員の挙手を求める。

挙手（全員）

小出委員長職務代理

算数については、啓林館を採択することを宣言

小出委員長職務代理

理科について協議を行う。西三河教科用図書採択地区協議会が選定したのは大日本図書である。このことについて委員の意見を求める。

委員

大日本図書では、写真や図に対する解説が簡潔で、丁寧に書かれている。また、情報量も適切である。さらに、巻頭に掲載された写真と言葉、または、さまざまな読み物資料が、岡崎の教育が推奨するESD理念に合致していると考ええる。教育出版、東京書籍にも、同様な資料的ページはあるが、児童がそれらを資料として思考するには、写真や図に対する解説が十分ではなく、教師の補足解説が必要になるのではないかと考える。

委員

大日本図書、教育出版は、東京書籍と比べ、表紙や資料写真等、また、紙面の色遣いにインパクトがあり、児童の追究意欲や学ぶ楽しさを喚起する工夫がなされていると思う。特に大日本図書は、本文中の文字の大きさや行間が他社より若干小さくされ、その分、文章量や資料数が豊富になっており、児童の思考場면을重視する配慮があると感じることから大日本図書が適していると考ええる。

委員

大日本図書、教育出版では、実験・観察器具の操作方法が、どのページに掲載されているかを目次に示しており、児童の探究活動を技術面でサポートできるようになっている。東京書籍においても、巻末に資料として、理科室の使い方や実験観察器具の操作方法などが詳しく掲載されているという点では、同様な配慮がされていると考えるが、やはり使用する児童の立場から考えると、目次に示すことで使いやすくなる

と感じる。

委員

大日本図書は、追究の考察、まとめの記載が必要最小限にとどめてある。これは、児童の豊かな思考を授業中に表現できることにつながり、授業で扱う教科書としては適切であると考える。教育出版、東京書籍は、追究の考察、まとめの記載が詳細であるため、児童が実験や観察を行わなくても、ページをめくれば疑問が解決できてしまい、児童が自然事象や科学事象に抱く興味・関心の高まりが期待できない。これらのことから大日本図書がよいと考える。

小出委員長職務代理

西三河教科用図書採択地区協議会が選定した大日本図書を採択することに賛成する委員の挙手を求める。

挙手（全員）

小出委員長職務代理

理科については、大日本図書を採択することを宣言

小出委員長職務代理

生活科について協議を行う。西三河教科用図書採択地区協議会が選定したのは大日本図書である。このことについて委員の意見を求める。

委員

大日本図書は、言うまでもなく資料が豊富である。地図作りに発展していく町探検などは、3年生の理科や社会科につながるよう意識して編集されていると思われる。また、伝え合い活動を充実させるために必要な語彙力の向上を図ることができるよう、国語との関連も意識した編集の工夫がみられ、系統的、また横断的に見ても優れている。

委員

東京書籍は、原寸大の写真の掲載がある。啓林館は、写真やイラストが大胆に取り上げられ視覚的に訴えるような構成である。大日本図書は、色々な形の面白さが表現されている。3社それぞれの良さがあるが、児童の学習及び活動・体験を考えたとき、大日本図書が上手に児童の生活・体験に繋がる学習を想定した構成になっている。

委員

大日本図書は、バランスの良さに加えて、時折大胆な紙面構成を取り入れることで単調にならない工夫がされているとともに、個々の写真の子どもの表情が大変生き生きとしている。笑顔あふれる表情や、没頭する真剣な姿は、子どもにとって親しみがもて、子どもの関心とやる気を引き出すと感じられる。

委員

大日本図書は、活動の中で必要に応じて参考にできる資料が大変充実しているため、子どもたちの自発的な探究心を育むのに有効に活用できると考える。啓林館、東京書籍にも資料は示されているが、例えば、「調べ方」や「伝え方」の方法を示したページの表記を比べてみても、内容や解説に物足りなさが感じられ、子どもたちの自発的な探究心の後押しとなることは期待できないと考える。

小出委員長職務代理	西三河教科用図書採択地区協議会が選定した大日本図書を採択することに賛成する委員の挙手を求める。
	挙手（全員）
小出委員長職務代理	生活科については、大日本図書を採択することを宣言
小出委員長職務代理	音楽について協議を行う。西三河教科用図書採択地区協議会が選定したのは教育芸術社である。このことについて委員の意見を求める。
委員	教育芸術社では、新学習指導要領のなかで、重点的に取り扱うよう明記されている「音楽を形づくっている要素」が、題材のねらいのなかに明示されている。例えば「音色」、「音楽のしくみ」、「和音」、「曲想の移り変わり」、「旋律」、「音の重なり」などの身につけたい音楽の力を意識して、児童が学習に取り組むことができる。また、旋律や音の重なりを意識・理解させるための図式譜や例示が具体的であり、児童自身に演奏表現の工夫を考えさせるような手だてが適切にされている。これらのことから教育芸術社がよいと思う。
委員	歌唱教材については、教育芸術社は、日本の自然や四季の美しさを歌った、昔から取り扱われている「まっかな秋」、「海」などの歌唱教材を大切にしている。各教材の中で、「音楽を形づくっている要素」を意識づける配慮や工夫があるとよい。共通教材のポイントとなるような記述があると、表現の工夫のヒントや楽曲理解につながると思われる。一方、教育出版は、新しい合唱曲や外国の歌唱教材を取り入れている。学習のめあてが細かく、はっきりと書かれているため、岡崎で行っている「生活を見つめ直し、問題を見つけ、それを解決する」という問題解決学習の形態が取りづらい。創作教材が、やや難易度が高く、作る課程を評価しづらい。
委員	音楽づくり教材について、教育出版は、選択の幅が狭く、個のレベルでの創作になっている。教育芸術社は、何種類もあるリズムパターンや楽器から児童自身が選んでアンサンブルする教材で、子どもたちは音色や音の重なりを自然に意識している。子ども同士の関わり合いが生まれる点において評価できる教育芸術社がよいと感じる。
委員	学習時間を要する器楽合奏教材については、教育芸術社は難易度が発達段階に合っていて、達成感・成就感を得ることができるものになっている。音楽が苦手な児童や専門でない教員が指導するのに抵抗がないと感じる。
小出委員長職務代理	西三河教科用図書採択地区協議会が選定した教育芸術社を採択することに賛成する委員の挙手を求める。
	挙手（全員）
小出委員長職務代理	音楽については、教育芸術社を採択することを宣言

小出委員長職務代理	<p>図画工作について協議を行う。西三河教科用図書採択地区協議会が選定したのは開隆堂である。このことについて委員の意見を求める。</p>
委員	<p>開隆堂については、子どもの作品が非常に大きく表現されており迫力を感じる。子どもの活動や生き生きとした姿が表現されている。その両面から見て開隆堂がよいと考える。</p>
委員	<p>開隆堂にある「みんなのギャラリー」では、鑑賞教材として全国の小学校での児童の造形活動の様子や展示作品を取り上げている。1・2年下では、愛知県の三河地域である岡崎市、豊橋市、豊田市及び豊川市の野外造形展が取り上げられおり、とりわけ岡崎市の野外展である「造形おかざきっ子展」も掲載されていることは、非常によいことである。</p>
委員	<p>開隆堂と日本文教それぞれが「造形おかざきっ子展」を取り扱っている。ただ三河全体を考えたとき豊橋、豊田及び豊川等を扱っているのは開隆堂であり、岡崎市だけではない開隆堂がよいと思う。また開隆堂は、題材ごとにある「ふりかえって、はなしあおう」が示されており、言語活動を促すものや、知識技能の習得を活用する内容、また、評価の観点にかかわる単元のポイントが提示されている。授業者にとっては単元構成を組み立てる時の参考となり、児童にとっては、製作を進める時の見通しをたてることができることがよいと感じる。</p>
委員	<p>日本文教の3・4年上では、鑑賞教材として、校内・野外・地域の施設と場所による展示のよさや作品の見え方の違いに視点をおいた内容で、全国の児童作品が紹介されている。しかし、5・6年上にある「造形遊び」での題材が、高学年としての知的好奇心をくすぐる発見や気づきが導きにくい内容であると感じる。開隆堂のように、小学校の図画工作科から中学校の美術科へとつながりのある題材であることが望ましいと考える。</p>
小出委員長職務代理	<p>西三河教科用図書採択地区協議会が選定した開隆堂を採択することに賛成する委員の挙手を求める。 挙手（全員）</p>
小出委員長職務代理	<p>図画工作については、開隆堂を採択することを宣言</p>
小出委員長職務代理	<p>家庭について協議を行う。西三河教科用図書採択地区協議会が選定したのは開隆堂である。このことについて委員の意見を求める。</p>
委員	<p>東京書籍と開隆堂の2社のうち、より詳細で頁数も多いのは東京書籍である。5年生のミシンの内容を見ると東京書籍は「トライ」、開隆堂は「チャレンジ」という言葉で表現されている。両社の編集をみると東京書籍は、縦に表現されたり</p>

横に表現されたり見づらいように感じる。自身もミシンを教えたことがあることから、開隆堂の横にミシンの使い方を表現していることは、児童が理解しやすいのではないかと思う。

委員

開隆堂では、文字の大きさ太さや字間、行間の幅、ふりがなの文字の大きさのいずれもが適当で、児童にとって読みやすいものとなっている。また、写真とイラストが効果的に使われていることから、目的によってきちんと使い分けられている。写真を用いることで、児童にとって、より調理の作業手順がイメージしやすいものとなっている。例えば、ゆでキャベツを取り扱った内容では、微妙な仕上がり具合まで把握することができる。また手ぬいの方法では、写真やイラストを使い、4つの縫い方の違いを効果的に伝えている。実際に使われている様子を作品で示し、作品作りをイメージできるような構成となっている。これらのことから、視覚支援がしっかりと図られている教科書構成である開隆堂が適しているのではないか。

委員

東京書籍では、もくじを見ると、学習する内容が4色に色分けされている。この識別は、中学で学ぶ4つの学習内容との関連が図られており、小中を通した5年間の系統的な学びを意識した構成となっている。また、重要語句は太ゴシックで表記され、他の文字との差異がはっきりとしており、強調されていることが児童に伝わりやすくなっていると感じる。その一方で、写真やイラストの発色が全般によくないと感じる。その他にも、わかりやすく伝えるためのイラストが、背景に同系色を用いることによって目立たず、有効な視覚支援となっていない部分もある。

委員

開隆堂では、①に「生活を見つめる」、②に「気づいたことを話し合う」、③に「わかる・できる」、最後に④として「生活に生かす」という段階を経ながら児童が学びを追究でき、さらに家庭生活と密着した構成となっている。「チャレンジコーナー」のページでは、これまでに学んだことを、これからの実生活の場に生かすなど、生活に生かすための工夫が多くページで掲載されていると感じる。生活に生かす、開隆堂の教科書がよいと考える。

小出委員長職務代理

西三河教科用図書採択地区協議会が選定した開隆堂を採択することに賛成する委員の挙手を求める。

挙手（全員）

小出委員長職務代理

家庭については、開隆堂を採択することを宣言

小出委員長職務代理

保健について協議を行う。西三河教科用図書採択地区協議会が選定したのは大日本図書である。このことについて委員の

意見を求める。

委員

どの出版会社も「活用」の覧が設けられているが、そのページ数は、大日本図書と学研が多く、東京書籍は少なくなっている。またその内容については、学研は学んだことを活用すると言うよりは、学んだことを確認するような内容が多いのに対して、大日本図書は、学んだことを生かして活用できるものが多く含まれている。今の学びに求められている「活用」といった点からも、大日本図書がよいのではないかと感じる。

委員

教科書の大きさでは、一番大きいサイズが学研である。スペースに余裕があり、写真やカットが多く、見やすい構成にはなっているが、若干大きすぎるように感じる。一番コンパクトなサイズは大日本図書であるが、文字や写真、図などにゆとりがないように感じる。編集の点では、単元の最初の見開きで自分の生活を振り返って学習に入っていく、児童が興味関心を持ってスムーズに学習できるのは大日本図書であると思う。また岡崎市立羽根小学校が取上げられていることで児童にとって身近に感じると思う。

委員

学研に比べ大日本図書と東京書籍は、教科書に直接、考えを書いたり、チェックをしたりすることができる欄が多くある。児童が、ノートを使用しなくても、書く活動の中で、考えをまとめることができるように工夫してある。大日本図書は、グラフを多く用いて、グラフの項目を簡易な言葉で表記したり、余分な項目をその他にまとめたりする等、児童が理解しやすい内容になっていると感じる。

委員

大日本図書は、巻頭に教科書に出てくるマークの説明だけでなく、一つの単元における学習の流れが示されているため、どのように保健の学習が進んでいくのか、見通しをもつことができる。また、単元の初めのページは、見開きでカットを載せ、そこから自分の生活を振り返ることができるように工夫してある。このことにより、身近な話題から単元をスタートできるようになっている。このように、年度の初めや単元の初めを工夫することで、学習がスムーズに進むようにしてある大日本図書が適していると感じる。

小出委員長職務代理

西三河教科用図書採択地区協議会が選定した大日本図書を採択することに賛成する委員の挙手を求める。

挙手（全員）

小出委員長職務代理

保健については、大日本図書を採択することを宣言

小出委員長職務代理

平成 27 年度に使用する中学校教科用図書について協議する。

小出委員長職務代理

「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」第 14 条の規定に基づき、西三河地方教育事務協議会は、平成

26 年度と同一の教科用図書を使用する協議結果である。平成 27 年度に使用する中学校教科用図書について、協議会の協議結果のとおり採択することに賛成の委員の挙手を求める。

挙手（全員・多数）

小出委員長職務代理

平成 27 年度に使用するすべての小中学校教科用図書の採択が終了し、原案のとおり可決することを宣言

小出委員長職務代理

秘密会の終了を宣言し、土屋委員長の入室を許可する。
（土屋委員長入室）

小出委員長職務代理

土屋委員長へ第 11 号議案について、原案のとおり可決したことを報告

岡崎市教育委員会会議規則第 15 条第 2 項の規定により、ここに署名する。

平成26年 7 月24日

教育委員会委員長 土屋 武志

教育委員会教育長 高橋 淳

別添（略称表）

略称	発行者
東京書籍	東京書籍株式会社
大日本図書	大日本図書株式会社
開隆堂	開隆堂出版株式会社
学校図書	学校図書株式会社
教育出版	教育出版株式会社
教育芸術社	株式会社 教育芸術社
光村図書	光村図書出版株式会社
帝国書院	株式会社 帝国書院
啓林館	株式会社 新興出版社啓林館
日本文教	日本文教出版株式会社
学 研	株式会社 学研教育みらい